

[3] 母校だより

(1) 京都大学地球系教室及び関係教室の近況

(a) 社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻の近況報告

社会基盤工学専攻副専攻長 八木 知己

ただいまご紹介いただきました、平成29年度社会基盤工学専攻の副専攻長を仰せついております八木知己と申します。平成2年学部卒、平成4年修士課程修了でございます。それでは、土木系教室の近況を報告させていただきます。



まずは表1に示します通り教員の在籍状況をご報告申し上げます。土木系の研究室は、社会基盤工学専攻21研究室、都市社会工学専攻17研究室、地球環境学堂1研究室、情報学研究科3研究室、計42研究室ございます。この1年間の人事異動を表2にお示しいたします。時間の関係上、教授の先生方を中心にご説明いたします。この3月に井合進教授が定年退職、間瀬肇教授、中川大教授が早期退職されておられます。新規採用といたしましては、4月1日付けで渦岡良介教授が徳島大学より着任されています。また、昨年12月1日付けで宇野伸宏教授、1月1日付けで岸田潔教授、高橋良和教授が教授に昇任されています。

続きまして、土木系学生の本年4月の就職状況を表3にお示しいたします。ほぼ例年通りの就職状況です。ただ、一時期復活の傾向を見せていた建設会社ですが、ここ数年再び減少傾向にあり、少し心配しております。次期の就職担当は木村亮教授が担当いたします。京土会の皆様におかれましては、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

本年度、特色入試で合格した学生が初めて地球工学科に入学して参りました。「授業科目の一環として実施した課題研究や科学に関する課外活動において顕著な実績をあげた者、又は高校課程の数学、物理、化学の内少なくとも1科目においてきわめて優れた学業成績を修めた者」を選抜い

表1 土木系教室の講座・分野 (H29年6月)

社会基盤工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授, 講師	助教
応用力学			西藤 潤, Khayyer, Abbas	田中 智大 ⁺
構造工学	構造材料学	高橋 良和	山本 貴士	高谷 哲
	構造力学	杉浦 邦征 ⁺	松村 政秀	鈴木 康夫
	橋梁工学	白土 博通	安 琳	
	構造ダイナミクス	八木 知己	—	野口 恭平
	国際環境基盤マネジメント	—	金 善玟, 張 凱淳	
水工学	水理環境ダイナミクス	戸田 圭一 [*]	山上 路生	岡本 隆明
	水文・水資源学	立川 康人	市川 温	萬 和明
地盤力学	地盤力学	木村 亮	木元小百合 [*]	澤村 康生
	社会基盤創造工学	金 哲佑		
空間情報学		宇野 伸宏	須崎 純一	木村 優介
都市基盤設計学	景観設計学	川崎 雅史	山口 敬太	
	沿岸都市設計学	後藤 仁志	原田 英治 ⁺	五十里洋行
防災工学 (防災研究所)	砂防工学	藤田 正治	竹林 洋史, (堤 大三)	宮田 秀介
	防災水工学	中川 一	川池 健司	
	地盤防災工学	渦岡 良介	—	上田 恭平
	水文気象工学	中北 英一	山口 弘誠	
	海岸防災工学	—	森 信人	—
	防災技術政策	寶 馨	佐山 敬洋, Lahournat Florence	
	水際地盤学	平石 哲也	(馬場 康之)	水谷 英朗
計算工学 (学術情報メディアセンター)		牛島 省		鳥生 大祐

* : 経営管理大学院併任, + : 地球環境学堂併任

都市社会工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授	助教
構造物マネジメント工学		河野 広隆*	服部 篤史	松本 理佐
地震ライフライン工学		清野 純史	古川 愛子	—
河川流域マネジメント工学		細田 尚	—	音田慎一郎
ジオマネジメント工学	土木施工システム工学	大津 宏康	Pipatpongsa, Thirapong	北岡 貴文
	ジオフロントシステム工学	三村 衛	肥後 陽介	澤田 茉伊
	国際都市開発		Flores, Giancarlo, Qureshi, Ali Gul	
都市社会計画学	計画マネジメント論	小林 潔司*	松島 格也	瀬木 俊輔
	都市地域計画	—	松中 亮治	大庭 哲治
都市基盤システム工学		岸田 潔	山田 忠史*	—
交通マネジメント工学	交通情報工学		Schmöcker, Jan-Dirk	中村 俊之
	交通行動システム	藤井 聡		—
都市国土管理工学 (防災研究所)	耐震基礎	澤田 純男	後藤 浩之	
	地域水環境システム計画	田中 茂信	田中 賢治	浜口 俊雄
	水文循環工学	堀 智晴		野原 大督
	災害リスクマネジメント	Cruz, Ana Maria	横松 宗太	
	自然・社会環境防災計画学	角 哲也	竹門 康弘, Kantoush, Sameh Ahmed	
	都市耐水	五十嵐 晃	米山 望	

*：経営管理大学院併任

地球環境学堂（都市社会工学専攻）

講座名	分野名	教授	准教授	助教
社会基盤親和技術論		勝見 武	乾 徹	高井 敦史

情報学研究科 社会情報学専攻

講座名	分野名	教授	准教授	助教
地域・防災情報システム学 (防災研究所)	総合防災情報システム	多々納裕一	Subhajyoti Samaddar	
	巨大災害情報システム	矢守 克也	大西 正光	—
	危機管理情報システム	畑山 満則		

表2 土木系教員人事異動（H28年6月～H29年6月）

●定年退職 社会基盤工学専攻 H29.3.31	井合 進 教授（防災工学講座（協力講座）地盤防災工学分野）
●退職 社会基盤工学専攻 H28.9.30 H29.3.31 都市社会工学専攻 H29.3.31	久保田善明 准教授（都市基盤設計学講座 景観設計学分野） 間瀬 肇 教授（防災工学講座（協力講座）海岸防災工学分野） 中川 大 教授（都市社会計画学講座 都市地域計画学分野） 宮川愛由 助教（交通マネジメント工学講座 交通行動システム分野） 奥村与志弘 助教（地震ライフライン工学講座（地球環境学堂））
●採用 社会基盤工学専攻 H28.12.1 H29.3.1 H29.4.1	Florence, Lahournat 特定講師（防災工学講座（協力講座）防災技術政策分野） 田中智大 助教（応用力学講座） 渦岡良介 教授（防災工学講座（協力講座）地盤防災解析分野） Florence, Lahournat 講師（防災工学講座（協力講座）防災技術政策分野） 野口恭平 助教（構造工学講座 構造ダイナミクス分野） 竹之内健介 特定助教（防災研究所 気象水文リスク情報（日本気象協会）研究分野）

都市社会工学専攻 H28.10.1 H29.3.1	瀬木俊輔 助教 (都市社会計画学講座 計画マネジメント論分野) 大友 有 特定助教 (ジオマネジメント工学講座 土木施工システム工学分野)
●昇任 社会基盤工学専攻 H29.1.1 都市社会工学専攻 H28.12.1 H29.1.1	高橋良和 教授 (構造工学講座 構造材料学分野) 宇野伸宏 教授 (空間情報学講座) 岸田 潔 教授 (都市基盤システム工学講座)
●配置換 社会基盤工学専攻 H29.4.1	杉浦邦征 教授 (構造工学講座 構造力学分野)→ 地球環境学堂(ダブルアポイントメント)へ 原田英治 准教授 (都市基盤設計学講座 沿岸都市設計学分野)→ 地球環境学堂(ダブルアポイントメント)へ 田中智大 助教 (応用力学講座)→ 地球環境学堂(ダブルアポイントメント)へ
都市社会工学専攻 H29.4.1	清野純史 教授 (地震ライフライン工学講座)← 地球環境学堂(ダブルアポイントメント)より 古川 愛子 准教授 (地震ライフライン工学講座)← 地球環境学堂(ダブルアポイントメント)より

表3 土木系学生の就職状況 (H29年6月)

就職先	学部	修士	博士	合計
内閣・各府省		7		7
独立行政法人・団体		3	1	4
学校			3	3
地方庁	2	10		12
道路		7		7
電気・ガス・水道		13		13
鉄道・航空		12		12
建設	1	9	1	11
鉄鋼・鉄構・機械・プラ ント・石油・造船	2	13		15
コンサルタント・設計		11		11
商社・銀行	3	10	1	14
情報通信・電機・電子・ システム	1	11		12
不動産		1		1
サービス業・その他	2	7	2	11
合計	11	114	8	133

たしました。センター試験も併せて受験する必要があります。募集定員3名のところに13名も応募がございました。現在その3名の学生が、一般試験で合格した学生と一緒に勉強をしているはずでございます。と申しますのも、当方も1回生の授業を担当しておりますが、どの子が特色入試で入ってきたかは、全く知らされておりません。おそらく、がんばっているものと期待しております。

続きまして、恒例ではございますが、土木系教室の国際化への取り組みをご紹介します。京土会の皆様から、奨学金、留学生の実習受け入れ、日本人学生の海外イ

ンターンシップ等で多大なご支援を頂いております。学部国際コースでございますが、平成23年度に一期生を受入れて以来、6年が経過し、本年4月に初めて修士課程を修了した学生が社会に巣立っていきました。卒業生の就職先ですが、初年度は4名の留学生在がおり、内2名は日本の建設会社、韓国のコンサルタント会社で働いております。ケニアからの2名の留學生は政府機関もしくは国際機関への就職を目指して就職活動を行っております。また最近では、企業様の方から国際コースの日本人学生を採用したいとのご要望もあり、日本人学生も無事、就職・進学いたしております。本年度4月の新入生は、第7期生となり留學生8名、一般学生6名の計14名が入学いたしました(写真1参照)。これまでの累計では、留學生64名、一般学生57名で計121名を受入れて参りました。留學生の教育のみならず、日本人学生の国際化教育にも注力いたしております。

白土博通教授が代表を務めておりますミャンマー工学教育拡充支援活動でございますが、こちらも5年目に入り、引



写真1 平成29年度国際コースの新入生

引き続き多数の土木系教員がヤンゴン工科大学、マンダレー工科大学に出向き、もしくは先方の教員や学生を京都大学に受入れて、ミャンマーにおける教育ならびに研究のポテンシャルアップを目指して、協力を続けております。

さらに、大津宏康教授が代表を務めております大学の世界展開力強化事業ですが、平成23～27年度の「強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成」の後継プログラムとして、「気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム」が昨年度よりスタートしております。図1に示します通り、以前のプログラムでは修士課程の双方向短期プログラムのみでしたが、長期プログラムに加えて、学部学生や博士課程の学生の留学・

インターンシップも取り入れた、あらゆる学年の学生を対象としたプログラムに生まれ変わっております。今後さらに多数の日本人学生を海外に派遣することになっております。以上のように土木系教室では様々な国際化の取り組みを行っており、京都大学の国際化をリードしている自負もございます。

最後にはなりますが、土木系教室では社会に貢献し、世界で活躍できる技術者・研究者の育成を目指して、学生を粘り強く育てて行きたいと考えております。引き続き、ご指導ご支援頂くと共に、温かい目で見守って頂きますよう、よろしく願ひ申し上げます。以上、土木系教室の近況報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。

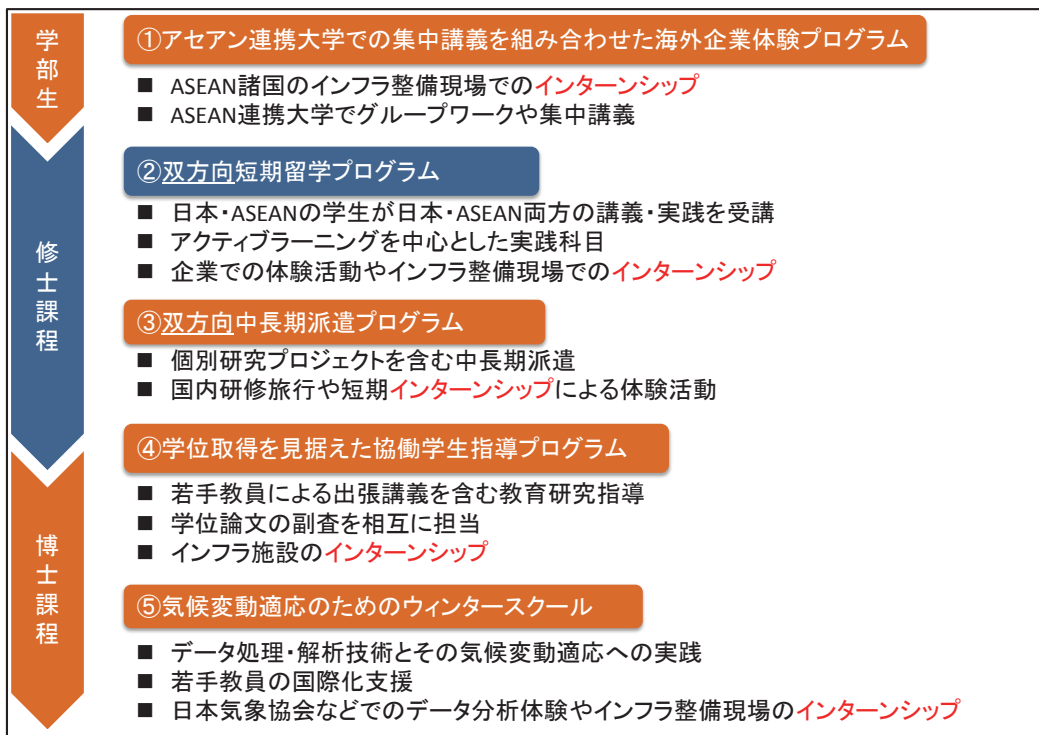


図1 気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム

(b) 都市環境工学専攻の近況報告

都市環境工学専攻長 高野 裕久

本日はご多忙のところ京土会総会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私は、本年度、都市環境工学専攻の専攻長を仰せつかっております環境衛生学講座教授の高野裕久と申します。



私、医学系の出身であり、八年ほど前に、国立環境研究所より現職に異動してまいりました。本学出身ではございませんが、専攻長としてこの場に立つのは二度目となります。本日御臨席の一部の先生方とは初めてお会いすることになるのではないかと存じますので、この場をお借りいたしまして自己紹介をさせていただきます。伝統ある会に参加させていただき、まことに光栄に存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、恒例に従いまして、都市環境工学専攻関連の近

況について簡単にご報告させていただきます。

まず、人事異動についてご報告申し上げます。平成28年3月31日に、大気・熱環境工学分野の松岡譲教授と放射性廃棄物管理分野の今中哲二助教が定年退職されました。平成28年7月1日に、水環境工学分野の講師として日高平助教が昇任されました。また、平成29年6月1日には、大気・熱環境工学分野教授として倉田学児准教授が昇任されました。大変残念なことでありますが、倉田学児教授は、6月12日にご逝去されました。この場をお借りし、深い哀悼の念を捧げたいと存じます。新規採用といたしましては、平成28年4月1日に、日下部武敏氏が環境デザイン工学講座助教に、井原賢氏が環境質予見分野特定助教に、矢野順也氏が環境保全工学分野助教に、平成28年10月1日、五味良太氏が環境リスク工学分野助教に、芝原雄司氏が放射線廃棄物管理分野助教に、小坂浩司氏が水環境工学分野准教授に着任されました。また、平成28年4月1日付で、橋本訓教授が分子工学専攻より安全衛生工学分野に配置換えとなりました。同日、松井康人准教授が環境リスク工学分野講師より安全衛生工学分野に、浅利美鈴准教授が環境保全工学分野助教より地球環境学堂に配置換えともなっております。

転出につきましては、平成29年3月31日、越後信哉都市衛生工学分野准教授が国立保健医療科学院に、鈴木裕織環境調和型産業論分野特定助教が土木研究所に異動されています。

これらの人事異動によりまして、現在の都市環境工学専攻関連の教員一覧はご覧のようになっております。

表1に示しましたように、14の研究室で構成しており、桂キャンパスにあります6研究室、黄色の部分は大津市、琵琶湖のほとりにあります流域圏総合環境質研究センターの

表1 都市環境工学専攻関連教員一覧 (38名)

大学院	専攻	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教	
工学研究科	都市環境工学	環境デザイン工学* (桂)		高岡 昌輝	大下 和徹	水野 忠雄	藤森 崇 日下部武敏	
		環境衛生学 (桂)		高野 裕久	上田 佳代		本田 晶子	
		環境システム工学 (桂)	水環境工学		西村 文武	日高 平		
			環境リスク工学	米田 稔	島田 洋子			五味 良太
			大気・熱環境工学					
			都市衛生工学	伊藤 禎彦	小坂 浩司			浅田 安廣
		物質環境工学	環境質管理 (流環)	清水 芳久	松田 知成			
			環境質予見 (流環)	田中 宏明		山下 尚之	中田 典秀 井原 賢	
			環境保全工学 (環科)	酒井 伸一	平井 康宏			矢野 順也
			安全衛生工学 (環科)	橋本 訓	松井 康人			
			放射能環境動態 (原実)		藤川 陽子			窪田 卓見
	放射性廃棄物管理 (原実)		福谷 哲			池上麻衣子 芝原 雄司		
地球環境学大学院	地球親和技術学廊		環境調和型産業論 (吉田)	藤井 滋穂	田中 周平		原田 英典	
エネルギー科学研究科	エネルギー社会・環境科学	エネルギー社会環境学	エネルギー環境学 (吉田)	東野 達	亀田 貴之		山本 浩平	

*：地球環境学堂との兼任 (2017年6月1日現在)

2研究室、吉田キャンパス内でこの建物の西側にあります環境科学センターの2研究室、さらに、大阪府熊取町に置いてあります原子炉実験所内に2研究室が都市環境工学専攻を構成しております。さらに、この吉田キャンパス内にございます地球環境学堂に所属しております環境調和型産業論分野およびエネルギー科学研究科のエネルギー環境学分野を合わせ、14研究室、38名の教員で活動しております。このうち、藤井滋徳教授は、現在、地球工学科長としてその任に当たっておられます。

これらの研究室は京土会の皆さまよりご支援を賜りまして、順調に発展を遂げてまいりました。ここに改めて心より感謝申し上げますとともに、引き続き、ご支援のほどをよろしくお願いいたします。

続きまして、当専攻の近況のひとつとして、アジアを中心とした国際活動について報告させていただきます。

表2にお示しいたしますように、中国・深圳拠点オフィスを清華大学深圳キャンパスに、マレーシア拠点オフィスをマラヤ大学に、ベトナム・ハノイ拠点オフィスをハノイ理工科大学に、タイ・バンコク拠点オフィスをマヒドン大学に置き、活動を継続し、留学生の獲得や学生の国際間交流に役立てております。

ります。タイ・バンコク拠点オフィスは2016年に開設し、2015～2018年度の概算要求「イノベータ」事業を契機に設置。クロスアポ教員（特定准教授）と事務員を配置し、京大・マヒドン大学間の共同学位プログラムを推進しております。

今後とも京土会の皆さまよりご支援を賜りまして、これらの活動を充実させていきたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に就職状況についてご報告申し上げます。表3に示しますとおり、昨年度卒業、修了生は34名でした。その内訳としては、公務員等は2名でありました。民間では環境装置メーカー、コンサルタントなどが引き続き多く増えておりますが、情報、鉄道、メーカー等、多岐に渡る民間企業に卒業生を輩出したしております。

平成29年度卒業・修了予定者の就職につきましても、現在、選考を進めていただいているところではありますが、引き続きよろしくお願い申し上げます。

以上、都市環境工学専攻の近況を簡単にご報告させていただきました。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

都市環境工学専攻近況	
<p>中国・深圳拠点オフィス（清華大学深圳キャンパス） 2005年開設。2012年度のGCOEやEML終了後も民間企業からの寄付や総長裁量経費等で維持。第4期キックオフを2016年9月京都、12月深圳で開催。クロスアポ教員（助教）と事務員を配置し、新築のエネルギー・環境棟へ移転拡充。</p>	
<p>マレーシア拠点オフィス（マラヤ大学） 2010年開設。JSPSアジア研究教育拠点事業「リスク評価に基づくアジア型統合的流域管理のための研究教育拠点」(2011年度～2015年度)、JSPS二国間交流事業(2017～2019年度)。</p>	
<p>ベトナム・ハノイ拠点オフィス（ハノイ理工科大学） 2008年開設。2012年度のGCOEやEML終了後も学堂を中心とした全学経費や概算要求特別経費などで維持。</p>	
<p>タイ・バンコク拠点オフィス（マヒドン大学） 2016年開設。2015～2018年度の概算要求「イノベータ」事業を契機に設置。クロスアポ教員（特定准教授）と事務員を配置し、京大・マヒドン大学間の共同学位プログラムを推進。</p>	

具体的には、中国・深圳拠点オフィスは2005年に開設し、2012年度のGCOEやEMLプログラム終了後も民間企業からの寄付や総長裁量経費等で活動を継続しております。第4期キックオフを2016年9月京都、12月深圳で開催いたしました。また、クロスアポ教員（助教）と事務員を配置し、新築のエネルギー・環境棟へ移転、拡充しています。マレーシア拠点オフィスは、2010年に開設し、その後も、JSPSアジア研究教育拠点事業「リスク評価に基づくアジア型統合的流域管理のための研究教育拠点」(2011年度～2015年度)、JSPS二国間交流事業(2017～2019年度)等で活動を継続しております。ベトナム・ハノイ拠点オフィスはあ2008年に開設し、2012年度のGCOEやEML終了後も学堂を中心とした全学経費や概算要求特別経費などで活動を継続してお

平成28年度卒業・修了生の進路
<p>就職した卒業・修了生： 34名</p> <p>公務員： 環境省、滋賀県</p> <p>民間： 三井物産、三井住友海上、キーエンス、五洋建設、住友生命、日水コン、奥村組、パナソニックエコシステムズ、メタウォーター、数理計画、三菱重工業、NTTデータ、大阪ガス、中部電力、川崎重工業、ヤンマー、富士通システムズウェブテクノロジー、パナソニック、タクマ、神鋼環境ソリューション、日本電産、JFEエンジニアリング、博報堂、三菱日立パワーシステムズ、ドコモ・システムズ、住友ゴム、野村総合研究所、積水化学工業、(株)ジーニー、(株)マルハン、(株)サイバーエージェント、アクセンチュア</p>

(2) 人事異動 (平成28年10月～平成29年10月)

(職名は異動後の職名, 但し () 内は異動前の職名)

【社会基盤工学専攻】

H28.12.1	宇野 伸宏	教 授	都市社会工学専攻交通マネジメント工学講座交通情報工学分野准教授より社会基盤工学専攻空間情報工学講座教授へ昇任
H29.1.1	高橋 良和	教 授	社会基盤工学専攻構造工学講座構造ダイナミクス分野准教授より社会基盤工学専攻構造工学講座構造材料学分野教授へ昇任
H29.3.1	田中 智大	助 教	新規採用
H29.3.1	加藤 雅也	特定研究員	新規採用
H29.3.31	井合 進	(教 授)	定年退職
H29.4.1	杉浦 邦征	教 授	社会基盤工学専攻構造工学講座構造力学分野と地球環境学部の併任へ配置換
H29.4.1	原田 英治	准 教 授	社会基盤工学専攻都市基盤設計学講座沿岸都市設計学分野と地球環境学部の併任へ配置換
H29.4.1	田中 智大	助 教	社会基盤工学専攻応用力学講座と地球環境学部の併任へ配置換
H29.4.1	Florence, Lahournat	講 師	新規採用
H29.5.1	山口 敬太	准 教 授	社会基盤工学専攻都市基盤設計学講座景観設計学分野助教より昇任
H29.8.31	加藤 雅也	(特定研究員)	退職

【都市社会工学専攻】

H29.1.1	岸田 潔	教 授	都市社会工学専攻河川流域マネジメント工学講座准教授より都市社会工学専攻都市基盤システム工学講座教授へ昇任
H29.3.1	大友 有	特 定 助 教	新規採用
H29.3.31	中川 大	(教 授)	退職 (富山大学副学長, 大学院理工学研究部教授へ)
H29.3.31	宮川 愛由	(助 教)	退職
H29.3.31	奥村与志弘	(助 教)	退職 (関西大学社会安全学部准教授へ)
H29.3.31	越後 信哉	(准 教 授)	退職 (厚生労働省国立保健医療科学院へ)
H29.4.1	渦岡 良介	教 授	新規採用
H29.4.1	清野 純史	教 授	都市社会工学専攻地震ライフライン工学講座と地球環境学部の併任より配置換

H29.4.1	古川 愛子	准 教 授	都市社会工学専攻地震ライフライン工学講座と地球環境学部の併任より配置換
H29.7.31	中村 俊之	(助 教)	退職 (名古屋大学未来社会創造機構特任准教授へ)
H29.8.1	川端祐一郎	助 教	新規採用
H29.8.1	音田慎一郎	准 教 授	都市社会工学専攻河川流域マネジメント工学講座助教より昇任

【都市環境工学専攻】

H28.10.1	He Kai	特定研究員	新規採用
H28.10.1	朴 峻遠	特定研究員	新規採用
H29.3.31	李 善太	(特定研究員)	退職
H29.4.1	SEPOSO Xerxes Tesoro	特定研究員	新規採用
H29.4.1	林 東範	特定研究員	新規採用
H29.6.1	倉田 学児	教 授	都市環境工学専攻環境システム工学講座大気・熱環境工学分野准教授より昇任
H29.8.1	小坂 浩司	准 教 授	都市環境工学専攻環境システム工学講座水環境工学分野より都市環境工学専攻環境システム工学講座都市衛生工学分野へ配置換
H29.9.30	He Kai	(特定研究員)	退職
H29.10.1	ZHANG Han	特定研究員	新規採用

【地球系事務室】

H29.4.1	矢野 隆夫	技 術 職 員	定年退職後再雇用
H29.4.1	古川 大祐	掛 長	経理事務センター掛長 (Cクラスター事務区会計掛) より北部構内共通事務部管理課掛長 (管理掛) へ配置換
H29.4.1	當麻 公子	掛 長	Cクラスター事務区会計掛専門職員より経理事務センター掛長 (Cクラスター事務区会計掛) へ配置換
H29.4.1	畠中 あい	主 任	総務課主任 (Cクラスター庶務掛) より総合博物館事務掛主任へ配置換
H29.4.1	米原 深幸	主 任	総務課主任 (Aクラスター庶務掛) より総務課主任 (Cクラスター庶務掛) へ配置換
H29.4.1	鯨坂久美子	主 任	経理事務センター主任 (Cクラスター事務区会計掛) より医学部附属病院総務課主任 (研究協力掛) へ配置換

[3] 母校だより

H29.4.1	中西 瑞穂	主任	経理事務センター主任 (Cクラスター事務区会計掛)より北部構内経理課主任(数理解析研究所共同利用掛)へ配置換
H29.4.1	久村 静香	主任	医学・病院構内共通事務部経理・研究協力課主任(運営費・寄付金掛)より経理事務センター主任(Cクラスター事務区会計掛)へ配置換
H29.4.1	深尾 奈美	主任	経理事務センター主任(Aクラスター会計掛)より経理事務センター主任(Cクラスター事務区会計掛)へ配置換
H29.4.1	内田 恭嗣	掛員	施設部プロパティ運用課掛員(資産掛)より経理事務センター掛員(Cクラスター事務区会計掛)へ配置換
H29.4.1	前澤 理佐	図書課主任	教務課主任(教務掛(地球工学科))より北部構内教務・図書課主任(理学研究科学部教務掛)へ配置換
H29.4.1	大槻 温子	教務課主任	医学研究科主任(人間健康教務掛)より教務課主任(教務掛(地球工学科))へ配置換
H29.4.1	安原 通代	図書掛主任	図書掛掛員(地球系)より昇任
H29.7.31	山中 茂弘		辞職
H29.10.1			Cクラスター教務第一掛、第二掛が統合し、Cクラスター教務掛へ
H29.10.1	上西 正人	教務課専門員	教務課専門員(兼Cクラスター事務区教務第一掛長)より教務課専門員へ配置換
H29.10.1	藤森 隆志	教務課専門員	教務課専門員(兼Cクラスター事務区教務第二掛長)より教務課専門員(兼Cクラスター事務区教務掛長)へ配置換
H29.10.1	常深久美子	教務課専門員	教務課専門職員(教務掛電気電子工学科)より教務課専門職員(Cクラスター事務区教務掛)へ配置換
H29.10.1	袖岡 亜季	事務職員	教務課(Cクラスター事務区教務第一掛)より教務課留学生掛へ配置換
H29.10.1	宮内 友則	総務課専門員	北部構内施設安全課掛長(安全管理掛)より総務課専門職員(Cクラスター事務区庶務掛)へ配置換

(3) 学位授与 (平成28年11月24日～平成29年9月25日)

(課程博士)

Josko Troselj	H28.11.24	河口土砂輸送過程に及ぼす河川の影響と海岸モデルへの河川流出情報の結合 (英文)	久保田 踊児	H29.5.23	貯水池の土砂動態予測手法の高度化とその応用
呉 慧喆	H28.11.24	統合的湖沼流域管理の実現に向けた水環境管理支援システムの構築：韓国八堂湖流域を対象として	Wissanu Hattha	H29.9.25	タイ湾奥の海象データを用いた係留地の稼働率に関する研究 (英文)
辻倉 裕喜	H29.3.23	非線形フィルタ理論に基づくデータ同化手法を応用した洪水予測手法に関する研究	東 俊孝	H29.9.25	高分解能偏波ドップラーレーダを用いた車両走行時の降水影響評価とITSへの活用方策に関する研究
ADI PRASETYO	H29.3.23	市街地スケールの津波浸水に関する水理模型実験と数値解析 (英文)	Patinya Hanittinan	H29.9.25	多数アンサンブル将来気候予測情報を用いたインドシナ半島での河川流量変化の統計的分析 (英文)
赤木 俊文	H29.3.23	ハイドレート含有地盤のガス生産時における地震および内部浸食に関する数値解析 (英文)	TALCHABHADEL Rocky	H29.9.25	感潮域における土砂管理に関する研究 - タイダル・ベイシス・マネジメント - (英文)
Artur Sagradyan	H29.3.23	漏洩磁束法による腐食したPC鋼材の断面減少の検知手法 (英文)	CHONG, Khai Lin	H29.9.25	氾濫の影響を反映した洪水到達時間の推定とハザードマッピング (英文)
野口 恭平	H29.3.23	橋梁表面へ付着する塩分量の部位別予測と維持管理技術の高度化への適用	梁 靖雅	H29.9.25	気候変動を考慮した韓国沿岸における高潮の将来変化予測 (英文)
Hendy Setiawan	H29.3.23	ダム貯水池の上流域における地すべり災害の評価に関する研究 (英文)	Mohammed Abdel-Fattah Sayed Soliman	H29.9.25	ワジ流域におけるフラッシュフラッドのリスク評価と被害軽減対策のための水文地形学的総合アプローチに関する研究 (英文)
薛 寒	H29.3.23	中国平橋川流域を対象にした流出ハイドログラフ成分分離法による非点源汚染モデリングの研究 (英文)	小林 優輔	H29.9.25	高速交通体系の整備が国土構造の変動に及ぼす影響に関する研究
張 媛	H29.3.23	中国と日本の歴史景観の構造：隋唐時代の中国仏教寺院と日本庭園を対象として (英文)	岩本 哲也	H29.9.25	沿岸構造物を対象とした粒子法による地震津波被害の評価に関する研究
山野井一輝	H29.3.23	土砂生産・土砂供給過程を考慮した土砂流出モデルの開発とその応用に関する研究	新垣 芳一	H29.9.25	多層・多相理論を適用した表層地盤の地震応答特性に関する研究 (英文)
張 東明	H29.3.23	横風に対する道路走行車両の安定性向上に関する研究 (英文)	QUYEN THI LAN PHUONG	H29.9.25	都市地域開発計画のモニタリング評価システムに関する研究 - ハノイマスタープランへの適用 (英文)
太田 一行	H29.3.23	堰型構造物周辺の河床変動予測手法に関する研究	謝 旭昇	H29.9.25	交通行動変容におけるアクションプランニング及びコーピングプランニングの役割 (英文)
橋本 涼太	H29.3.23	地盤-石積複合構造物の安定性評価手法の開発と歴史的構造物への適用に関する研究 (英文)	栗林 賢一	H29.9.25	新しい管理指標を用いた鉄道橋の健全度評価手法に関する研究
Rishi Ram Parajuli	H29.3.23	地震時における車両の動的挙動に関する研究 (英文)	HO HUU LOC	H29.9.25	生態系サービス概念の環境政策への適用：ベトナム国メコンデルタにおいて (英文)
土肥 裕史	H29.3.23	社会的リアリティに着目した津波避難シミュレータの開発とその評価に関する研究	Pratiti Home Chowdhury	H29.9.25	PM2.5 成分と呼吸器アレルギー：アジア都市のPM2.5 に注目したin vitro 研究 (英文)
西村 隆義	H29.3.23	危機耐性に優れた橋梁の自重補償機構の提案と実構造への実装	張 晗	H29.9.25	下水中に存在するGタンパク質共役型受容体に作用する医薬品の生理活性と複合作用に関する研究 (英文)
永島 弘士	H29.3.23	津波来襲時の河道内塩水遡上に関する数値解析的研究	曾 程輝	H29.9.25	ポリアミドおよびスルホン化ポリエーテルスルホン系NF膜による種々の水溶液中のペルフルオロヘキサンの除去特性に関する研究 (英文)
Winij Ruampongattana	H29.3.23	流動性供給を考慮したPPPインフラ事業におけるリスク分担に関する研究 (英文)	山本研一朗	H29.9.25	モンモリロナイトへのカフェインの吸着機構についての研究
加藤 伸之	H29.3.23	労働環境中粒子状物質の挙動とリスク評価に関する研究	SHWETA YADAV	H29.9.25	琵琶湖の富栄養化浅層湖盆における水生植物のモニタリングおよびマッピングのための衛星データの利用 (英文)
矢澤 大志	H29.3.23	マレーシア・ジョホール川流域における統合的流域管理へ向けた洪水設計基準の構築 (英文)	(論文博士)		
李 旋坤	H29.3.23	金属酸化物ナノ材料の水溶液マトリックスと多孔質体中での挙動と輸送における界面活性剤の影響 (英文)	関 克己	H29.1.23	自然災害時の危機管理における意思決定に関する研究
林 東範	H29.3.23	ウイルス除去と消毒副生成物の生成を考慮したオゾンとセラミック膜ろ過の組合せ下水再生プロセスの開発 (英文)	金澤 文彦	H29.3.23	路車協調システムによる道路交通問題改善に関する実証研究

(4) 学生の進学・就職状況

平成28年度の大学院および学部学生の進学就職状況は次の通りである。(H29.10.1)

(尚、総会時、各学科専攻長報告の数より若干変更有)

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
博士課程			社基 都社 都環 学舎	2 1 2 1		
修士課程					地球	129
研究生・その他 (他大学)	社基 都社 都環 情報	3 3 3 2			地球	2
学校関係	社基	1				
環境省					地球	1
国土交通省			社基 都社	1 6		
独立行政法人	都社	1	社基 学舎	3 1	地球	1
都道府県			社基 都社 都環	4 3 1		
市町村	情報	1	社基 都社	1 2	地球	2
道路	都社	1	社基 都社	5 2		
鉄道・航空			社基 都社	6 5		
電力・ガス			社基 都社 都環 学舎	4 6 2 1		
建設会社	社基	2	社基 都社 都環 学舎	9 2 3 1	地球	2
鉄鋼・鉄構・機械・ 電機・電子	都社 都環	1 1	社基 都社 都環 学舎 エネ科	7 7 12 1 3	地球	2
コンサルタント	都社	3	社基 都社 都環	3 5 2		
銀行・商社・ 証券・保険	社基	1	社基 都社	5 7	地球	6
不動産			都社	1		
シンクタンク			都社 都環	1 1		

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
情報通信	都社	1	社基 都社 都環 情報	3 2 2 2		
サービス業・ その他	社基 都社 都環 学舎 エネ科	9 2 5 1 1	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	12 3 3 1 2 1	地球	14
合計	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	16 12 9 1 3 1	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	65 53 28 6 4 4	地球	159
		42		160		159

(5) 国際コースと留学生

工学研究科では、博士後期課程への留学希望者の増加に応じて多くの留学生を受け入れてきたが、教育指導は基本的に日本語を用いて行われているため、優秀な学生でも言語の障壁のため本研究科への応募を躊躇することが数多くあった。このような問題に対応するため、平成13年度から平成24年度まで英語のみを使用する博士後期課程総合工学特別コースが実施された。さらに、社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻では修士課程を対象とする国際コースを平成23年4月から、工学部地球工学科では学部制を対象とする国際コースを平成23年4月から開設している。